

**【施策評価調査】**

施策名	2-2-1	地域密着型介護施設の整備		86	高齢者が明るく安心して生き生きとした老後を暮らすことができるようにするために 1. 子どもから高齢者、障害者も利用できる複合的な多目的施設の整備 2. 要支援要介護にならない予防策 3. 地域包括支援センターの有効活用 4. 高齢者の社会参加と学習機会の提供 5. 安定した生活支援 6. 地域協力の体制づくりを構築する
		※高根沢町地域経営計画2006 該当ページ			
担当部課	住民生活部 健康福祉課	担当	社会福祉担当		要介護者の様態や希望に応じて「訪問」や「泊まり」を提供しながら在宅生活を支援することができる小規模多機能型居宅介護施設*を整備します。さらに、認知症高齢者を対象とした認知症対応型グループホーム*を整備します。(※「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)
環境変化	核家族化の進行や扶養意識の希薄化、共働きの増加等により家族における介護力の低下などから、介護施設を利用する方が増加するなど、高齢者をめぐる状況も大きく変化していることから、将来を見据え、要介護者のみならず全ての町民が利用できる多目的な複合施設の整備が求められています。	リーダー	赤羽 一夫		

**■指標**

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標①: 小規模多機能居宅介護施設数(箇所)	平成16年度	計画	1箇所				
	0箇所	実績	↓ 0箇所	↓ 0箇所	→ 1箇所		
指標②: 認知症対応型グループホーム数(箇所)	平成16年度	計画			1箇所		
	0箇所	実績	→ 0箇所	→ 0箇所	→ 1箇所		
◆◇ 指標に関する特記事項 ◇◆	社会福祉法人幸世会が建築する、小規模多機能型居宅介護施設と認知症対応型グループホームの複合施設が平成21年3月末に完成した。平成21年6月開所						

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	7,500,000	0	48,110,000	0	
	決算	0	0	48,066,000	0	

**■事務事業事後評価 21年度の検証**

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか?(アウトカム)		
①	当初					
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)
②	当初					
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)
③	当初					
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)
④	当初					
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)
⑤	当初					
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)

**■施策事後評価 21年度の検証**

	施策達成状況に関する評価	課題と今後の方向性
自己評価	地域密着型施設であるグループホーム(「グループホーム高根沢」、「ケアハウスフローラ」、「大地」)の各所の運営推進会議に出席し、施設の運営状況を入居の動向さらに家族や地域の係わり合いを把握していった。 小規模多機能型介護施設の大空は、町内初めての施設であることから、介護事業所のケアマネジャーへ施設のサービス内容を啓発するとともに、民生委員の研修において施設視察を行った。	独居者・高齢者世帯の増加に伴い要介護者が増えていることから、地域密着型の施設整備が望まれる。
総合評価	整備された施設の運営状況を把握し、引き続き側面的なサポートを行うとともに、介護サービスのニーズを見極めた上で、後期計画での当施策のあり方を検討すること。	